

# 平成24年度

## 第2回宇治市小中一貫教育推進協議会資料

1	平成24年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について	1
2	宇治市小中一貫教育推進協議会委員視察報告一覧(概要版)	2
3	平成24年度中学校ブロックを単位としたジョイントプランに基づく 小中一貫教育の進捗状況一覧(中間総括・年度末総括)報告書	3
	①宇治中学校ブロック	
	②北宇治中学校ブロック	
	③槇島中学校ブロック	
	④西小倉中学校ブロック	
	⑤西宇治中学校ブロック	
	⑥南宇治中学校ブロック	
	⑦広野中学校ブロック	
	⑧東宇治中学校ブロック	
	⑨木幡中学校ブロック	
	⑩黄檗中学校ブロック[宇治黄檗学園]	
4	視察等受け入れ状況(宇治市教委分)	13

## 平成24年度宇治市小中一貫教育推進協議会の活動について

事務局

### 1 協議会の活動について

小中一貫教育に関する取組全般の進行管理を行い、取組内容の点検確認とともに改善点について意見の交換等を行う。

### 2 今年度の活動計画について

#### (1) 年2回の協議会開催

交流・協議による進行管理

①第1回協議会 7月12日(木)

②第2回協議会 2月～3月開催予定 [年度末 進行管理]

#### (2) 中学校ブロックの特色ある取組の視察

学校現場での取組視察による進行管理

中学校ブロックの取組を視察し、その後現地にて交流・協議を行う。

・視察受け入れ可能な取組を委員が選択し参加する。(2学期予定)

・学校と小中一貫教育推進協議会委員の交流・協議の場をもつ。

(管理職や小中一貫教育コーディネーター等に対応をお願いする)

※事前に、中学校ブロックに特色ある取組(合同研究会・合同発表会等小・中学校や地域が合同で行う取組)の情報提供及び協議会委員参観の依頼を行う。

今年度は、加えて、各小・中学校が行う授業参観やオープンスクールなどを利用した学校の取組を知る機会を設定する。

#### (3) プロジェクトチームの設置

必要事項の調査・研究

今年度も専門部会(一昨年度は学校運営・教育課程・地域連携の3部会を設置)については設置せず、協議会の場でさらに深く調査、研究等を必要とする事項が生じた場合にプロジェクトチームを設置する。プロジェクトチームの構成員は協議会委員の中から選出する。

### 3 今年度の活動報告について

#### (1) 協議会

①第1回協議会 7月12日(木)

②第2回協議会 3月14日(木)

\*当初の予定どおり、協議会を2回開催

#### (2) 各中学校ブロックの特色ある取組の視察

	視察校 (中学校ブロック)	視察者
10/26(金)	北小倉小学校 (北宇治中ブロック)	榊原会長
11/8(土)	西宇治中学校 (西宇治中ブロック)	—
11/14(水)	東宇治中学校 (東宇治中ブロック)	伊家委員
11/15(木)	南宇治中学校 (南宇治中ブロック)	鶴飼委員
11/20(火)	宇治黄檗学園 (黄檗中ブロック)	小谷委員・村上委員
11/21(水)	南小倉小学校 (西小倉中ブロック)	榊原会長・小谷委員
11/26(月)	木幡小学校 (木幡中ブロック)	佐名田委員・吉田委員・薮委員 荻野委員
11/28(水)	槇島中学校 (槇島中ブロック)	田邊委員・坂井委員・大槻委員
12/8(土)	宇治中学校 (宇治中ブロック)	—
12/11(火)	大久保小学校 (広野中ブロック)	宮脇副会長

\*10中学校ブロック(委員視察は8中学校ブロック)の取組視察を行った。

[2中学校ブロックは事務局のみ]

\*視察時は取組参観のあと、視察校関係者と意見交流や協議を行った。

#### (3) 小・中学校への気軽な訪問(授業参観時などを利用)

	訪問校 (中学校ブロック)	訪問(視察)者
10/23(火)	笠取小学校 (木幡中ブロック)	佐名田委員

平成 24 年度宇治市小中一貫教育推進協議会委員視察報告一覧（概要版）

月 日	視察校 【視察中学校ブロック】	視察者	時間・内容	協議対応者	協議内容（概要） 等
10/26(金)	北小倉小学校 【北宇治中学校ブロック】	榊 原会長 瀬野(事務局)	13:45～14:30 研究授業参観 14:30～15:30 協議	立野校長(北小倉小) 小畑校長(小倉小) 西村教頭(北小倉小) 村上先生(北宇治中) 〔チーフ Co〕	○9年間を見据えた取組の大切さについて ○互いの授業参観で分かったことについて ○発表の仕方について ○「4つの視点」を意識した授業づくりについて ○小中学校の教員は垣根の低いチャンネルで議論することの大切さについて 他
11/8(木)	西宇治中学校 【西宇治中学校ブロック】	— 米田(事務局)	13:45～ 半日体験入学参観 (中学校紹介・授業体験・部活体験) 協議	川嶋校長(西宇治中) 立原先生(伊勢田小) 〔チーフ Co〕	○授業体験活動について ・事前研究において小中学校教職員で協議 ・50分授業の体験について ○部活動体験活動について 他
11/14(水)	東宇治中学校 【東宇治中学校ブロック】	伊 家委員 米田(事務局)	13:30～ 半日体験入学参観 (中学校紹介・部活動体験) 協議	橋川校長(南部小) 久保田教頭(東宇治中) 上口先生(南部小) 〔チーフ Co〕	○半日体験入学について 他
11/15(木)	南宇治中学校 【南宇治中学校ブロック】	鶴 飼委員 米田(事務局)	15:45～ 部活動入学 協議	江口校長(南宇治中) 川合校長(平盛小) 石原先生(平盛小) 〔チーフ Co〕	○部活動体験について ・中学校入学の不安を解消する取組のひとつ ・中学生自身も良きモデルを見せようとする意識 ○ブロック校長会の動きについて ○中学校部活員が小学校クラブ活動を援助する事業の企画・運営について 他
11/20(火)	宇治黄檗学園 (宇治小学校・黄檗中学校) 【黄檗中学校ブロック】	小 谷委員 村 上委員 米田(事務局) 瀬野(事務局)	13:30～14:15 授業参観 (1・3・5・7年生) 14:15～15:30 協議	吉田先生(宇治小) 〔チーフ Co〕	○宇治黄檗学園の現状報告 ○日常的な異年齢学年での交流状況について ○学年と学校を繋ぐ組織(システム)について ○3つのステージのまとまりにおける指導について ○中学校教員の授業方法の工夫改善について 他
11/21(水)	南小倉小学校 【西小倉中学校ブロック】	榊 原会長 小 谷委員 米田(事務局)	14:05～14:50 公開授業参観 15:00～16:30 合同研修会 16:30～17:00 協議	山下校長(南小倉小) 北川校長(西小倉小) 吉田校長(西小倉中) 高橋先生(西小倉小)	○公開授業について ・視覚を大切にした授業工夫 ・小中一貫教育の視点を大切にした授業 ○小学校の学びを中学校の学びに ○教科連携教員が意識する大切な視点について ○家庭学習の手引きの活用について 他
11/26(月)	木幡小学校 【木幡中学校ブロック】	佐名田委員 吉 田委員 菫 委員 萩 野委員 瀬野(事務局)	14:30～14:45 研修ねらい説明 14:45～15:30 公開研究授業 (社会・外国語活動・音楽) 15:30～16:00 事後研究会参観 16:00～16:30 協議	駒田校長(笠二小) 坂井校長(木幡中)	○木幡中ブロックの取組概要について ・当初計画した年間3回の合同研修会に加え、授業づくりのための自発的な教科部会も ・小中学校教員が協働で行う授業 ○公開授業について ・もう少し中学校で学ぶ専門的な視点が入った内容を加味することの必要性 ○半日体験入学について 他
11/28(水)	槇島中学校 【槇島中学校ブロック】	田 邊委員 坂 井委員 大 槻委員 瀬野(事務局)	13:40～13:55 研修会概要説明 13:55～14:45 公開授業参観 (1年数学・英語少人数授業) 14:55～15:20 事後研究会参観 15:20～16:00 協議	心山校長(槇島中)※ 小谷先生(北槇島小) 〔チーフ Co〕	○槇島中学校ブロックの取組概要について ・合同研修会の取組、授業チェックシートについて、振り返りカードについて ・小中学校教員が協働して授業づくりすることについて(指導案作成を小中の視点から行う) ・小小連携を進めることについて ○提示カードの有効性について ・ブロック内での共有化を ○小中合同研修会について 他
12/8(土)	宇治中学校 【宇治中学校ブロック】	— 米田(事務局) 瀬野(事務局)	10:00～12:15 部活動体験参観 吹奏楽部演奏見学 ふるさと宇治21「世代を越えて」 12:30～13:10 協議	大越校長(宇治中) 大井校長(菟二小) 吉永教頭(菟二小) 鶴飼先生(菟二小) 〔チーフ Co〕	○「ふるさと宇治21」の取組全般について ・部活動体験の取組、参加状況など ○中1ギャップ解消について ○市全体への共通項的な取組の方向性の提示、具体的な数値目標の提示について 他
12/11(火)	大久保小学校 【広野中学校ブロック】	宮脇副会長 瀬野(事務局)	13:50～14:35 読み聞かせ参観 (中1生による紙芝居読み聞かせ) 14:35～15:20 協議	山花校長(大久保小) 園部校長(広野中) 島田先生(大久保小) 〔チーフ Co〕 小林先生(広野中)	○教育課程内で行う異学年交流活動について ・教育課程外での異学年交流活動の違い ○事前取組について ○一貫校と一貫教育校における異学年交流活動の進め方の違いについて ○チーフコーディネーターの役割の重要性について ○市統一で「交流の日」を設定することについて ・分散進学を抱える中学校ブロックも異学年交流活動を行いやすくなる 他

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名: 鶴飼 宏明(所属校: 菟道第二小学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)	成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などにに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	・昨年度の推進組織を再編成し、重点課題を設定して取組を推進する。 ・宇治中学校ブロックの小中一貫教育についての共通理解を図るため、チーフコーディネーターが「宇治中学校区小中一貫教育教職員news」を作成し、各部の進捗状況や他校の様子などを周知していく。 ・宇治中学校ブロックの教職員全員が小中一貫教育に関わる「小中合同研修会」を年に4回開催し、課題解決に向けた取組を推進する。	成果 ・教職員newsは年度当初、第1、2回合同研修会の専門部会での検討内容の報告と、3回発行することができた。 ・小中合同研修会は、昨年度中に学校間で年間計画を調整し、今年度は3回設定できた。	課題(改善策) ・菟道小・菟二小はどちらも今年度府小研究協力校であり、研究発表会に向けた取組のために2学期の日程調整が実現しなかった。代わりに、菟道小の研究発表会に積極的に参加することで、合同研修会の替わりとした。	成果 ・教職員newsは3回(年度当初・第1、2回合同研修会の専門部会での検討内容の報告)発行することができた。 ・小中合同研修会は、計画通り3回設定できた。	課題(改善策) ・今年度の2学期は菟道小学校の研究発表会を合同研修会の替わりとし、学校間の相互理解を深めることができたが、取組の多い2学期に教員同士が話し合う機会が持てなかった。そのため来年度は今年度同様各校の研究発表会に積極的に参加しながら、2学期も合同研修会を設定する。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	・小中一貫教育組織を12の専門部会から編成し、全ての教職員がいずれかの部会に所属する。そして小中合同研修会で担当の取組を検討し、中学校ブロック全体に提案する。 ・専門部会の中で、児童生徒交流部会、特別活動部会が中心となり、夏休み地域学校、宇治中半日体験入学、卒業メッセージや部活動体験などを検討し、児童生徒が直接交流する機会を設定する。	成果 ・組織の編成では、昨年度の反省をもとに、特別支援教育部を新設、教育相談部会と併設することができた。	課題(改善策) ・教職員数の少ない学校の部員は、欠席するとその部会に参加できなくなる。専門部会を精選し、専門部会の数を減らすことも検討が必要となる。	成果 ・組織の編成では、昨年度の反省をもとに、特別支援教育部を新設、教育相談部会と併設することができた。	課題(改善策) ・合同研修会での各専門部会が多いとメンバーの人数が少なくなり、話し合いが活発にされない部もあった。来年度は12の専門部会を9つに統合する。また各部の構成人数を均等にしている。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・専門部会(外国語・英語部会)が中心となり、教科連携教員(英語科)による有効な相互連携授業の活用法を検討・実施する。 ・専門部会(授業づくり部会)で検討されている授業スタイルが実践できるよう、普段の授業においても小中一貫教育を意識した授業を進める。	成果 ・4月当初から教科連携教員を活用した授業が実施できた。 ・生徒指導部会では、授業規律の確保に向けた取組の交流をすることができた。	課題(改善策) ・検討内容が部会の部員でとどまっていた、全校のものになっていない。毎月の職員会議で「小中一貫教育関係」の連絡事項を各校で設け、各部会の取組内容を全職員に周知する場の設定が必要となる。	成果 ・4月当初から教科連携教員を活用した授業が実施できた。 ・生徒指導部会では、授業規律の確保に向けた取組の交流をすることができた。	課題(改善策) ・毎月の職員会議で「小中一貫教育関係」の連絡事項を各校で設け、各部会の取組内容を全職員に周知する場の設定を行なったが、各部の取組を各校内で十分周知するまでには至らなかった。来年度は配付するだけで終わっていた「教職員news」を職員会議の連絡事項に設け、各部の取組について連絡をする場を設け、さらに周知していく。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・学習に関わる各専門部会(授業づくり部会・いしずえ学習部会・家庭学習の手引き部会)が中心となり、発達段階に応じた授業・学習スタイルを提案し、実践を通して検証する。 ・各専門部会(授業づくり部会・生徒指導部会)が連携し、9年間を見据えた授業の進め方や授業規律の検討を深め、提案・実践する。	成果 ・授業づくり部会では授業における「話型・聴法の基本」を検討し、3校で共有することができた。	課題(改善策) ・検討内容が部会の部員でとどまっていた、全校のものになっていない。毎月の職員会議で「小中一貫教育関係」の連絡事項を各校で設け、各部会の取組内容を全職員に周知する場の設定が必要となる。	成果 ・授業づくり部会では授業における「話型・聴法の基本」を検討し、3校で共有することができた。	課題(改善策) ・毎月の職員会議で「小中一貫教育関係」の連絡事項を各校で設け、各部会の取組内容を全職員に周知する場の設定を行なったが、各部の取組を各校内で十分周知するまでには至らなかった。来年度は配付するだけで終わっていた「教職員news」を職員会議の連絡事項に設け、各部の取組について連絡をする場を設け、さらに周知していく。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	・交換授業の実態を小小間で交流、また他の中学校ブロックの実態も参考にしながら検討する。	成果 ・2校共に積極的に計画できている。特に菟二小6年では、4教科で各担任による交換授業が取り組まれている。(理科・体育・家庭科・図工)	課題(改善策) ・各教科の時数に違いがあるため、学級担任による交換授業には限界がある。さらに充実させるため、また各校のコーディネーターがより小中一貫教育に専念できるように、非常勤講師の拡充が望まれる。	成果 ・2校共に積極的に計画できている。特に菟二小6年では、4教科で各担任による交換授業が取り組まれている。(理科・体育・家庭科・図工)	課題(改善策) ・各教科の時数に違いがあるため、学級担任による交換授業には限界がある。さらに充実させるため、また各校のコーディネーターがより小中一貫教育に専念できるように、非常勤講師の拡充が望まれる。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・専門部会(いしずえ学習部会)を中心に、各校での学力課題の交流・分析を通して重点指導事項(計算領域)を整理・提案し、基礎学力の充実を図る。 ・昨年度完成した「ふるさと学習(宇治中学校区宇治学)」を実施しながら交流し、各校における「ふるさと学習」をより深く理解し合いながら、指導内容を改善していく。	成果 ・いしずえ学習部会では京都府小学校学力診断テストを通して授業の工夫の仕方、練習問題の取り組みませ方等を検討することができた。 ・宇治学部会では年間指導計画の交流や中学校における発展学習を検討することができた。	課題(改善策) ・検討内容が部会の部員でとどまっていた、全校のものになっていない。毎月の職員会議で「小中一貫教育関係」の連絡事項を各校で設け、各部会の取組内容を全職員に周知する場の設定が必要となる。	成果 ・いしずえ学習部会では京都府小学校学力診断テストを通して授業の工夫の仕方、練習問題の取り組みませ方等を検討することができた。 ・宇治学部会では年間指導計画の交流や中学校における発展学習を検討することができた。	課題(改善策) ・毎月の職員会議で「小中一貫教育関係」の連絡事項を各校で設け、各部会の取組内容を全職員に周知する場の設定を行なったが、各部の取組を各校内で十分周知するまでには至らなかった。来年度は配付するだけで終わっていた「教職員news」を職員会議の連絡事項に設け、各部の取組について連絡をする場を設け、さらに周知していく。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・地域に小中一貫教育の取組を広めるため、保護者向けのたより「小中一貫教育校だより」を学期1回発行する。年度末には1年間の取組をまとめ、リーフレットを発行する。 ・小中一貫教育の取組を各校のホームページに掲載またはリンクさせる。	成果 ・1学期末に保護者向け「小中一貫教育校だより」を発行することができた。 ・菟道第二小学校ホームページに小中一貫のコーナーを新設できた。	課題(改善策) ・中身をより充実させる。	成果 ・1学期末に保護者向け「小中一貫教育校だより」を発行することができた。 ・菟道小学校及び菟道第二小学校ホームページに小中一貫のコーナーを新設できた。	課題(改善策) ・中身をより充実させる。
到達目標8	小学生の部活動体験の充実を達成するために	・陸上部と小学生駅伝大会参加児童(6年)との合同練習及び吹奏楽部による菟道第二小学校の「いい菟二の日」での演奏や菟道小学校鼓隊クラブとの合同練習を計画・実施してきた。今年度はさらに中学校の他の部活動が各小学校へ赴き、小学生への部活動体験を広げたい。そのため各専門部(児童生徒交流部会・家庭地域連携部会)が中心となり、小学生の部活動体験の計画及び調整を行う。	成果 未実施(10月～)	課題(改善策)	成果 ・今年度は昨年度に引き続き、陸上部による駅伝小中合同練習、吹奏楽部(菟道小)、また地域事業(ふるさと宇治21)の日には8つの部活動体験を実施することができ、新たに男子バレーボール部(菟二小)の部活動体験を実施することができた。	課題(改善策) ・部活動体験をより充実させるためには、中学校の協力が不可欠である。そのため来年度は担当校を菟道小学校から宇治中学校へ移し、より充実を図る。

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【北宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:村上 善輝(所属校:宇治市立北宇治中学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(解決策)	成果	課題(解決策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	北宇治中校区の各校長の「確かな見通し」と「明確な方針」のもと教頭部会、教務主任部会が計画に方向性をもたせ、チーフコーディネーターを中心とする3校のコーディネーターが連絡調整と教職員を組織する動きをつくり、3校の教職員の協力を得て、「それぞれの学校が豊かになる」取組を練る。 具体的には、コーディネーター会議を定期的開催し、諸課題の改善に向けて、連絡・調整をすすめることを基本とし、学期に1回以上小・中学校の全職員の研修会(総会)を実施する。	成果 週に一度各校持ち回りでコーディネーター会議を開き、連絡・調整・共通理解を密に行い、1学期・夏季休業中の取組を計画的に推進できた。	課題(解決策) 中学校ブロックの取組の重点課題を推進するために、コーディネーター会議をより一層のビジョンの共有を基に、3校の教職員の共通理解を図っていく。	成果 5/14, 8/22, 2/18 3回の総会と教科部会、教科外部会を実施した。総会前には、必ず3校の各部の代表者が連絡を取り合い、打ち合わせを実施した。 8/20 夏期研修会の全体会、教科・領域部会において授業改善の4つの視点を中心とした北宇治中学校区での年間計画、専任教員について協議を実施した。	課題(解決策) 授業改善の4つの視点を踏まえた論議が進めたが、成果を確認するための手法を構築する必要がある。 学期に1回以上の総会実施に伴う、授業時数の確保
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	小・中学校の教員が相互に授業参観や研究授業に参加し、「子どもにとって魅力ある(わかる)授業づくり」を目指した研修会を行う。また、「生徒による授業評価」を実施し、子どもの目線での授業改善をすすめる。	成果 これまで進めてきた合同研修会や児童生徒交流の取組の改善を図りながら進めることができた。それぞれの取組で感想や意見を集約し、その後の取組に反映させることもできた。	課題(解決策) これまでの研究実践で、ブロックとしての主要な事業は確定してきているが、児童生徒や地域の実態に応じた、めざす子ども像に迫る取組へ充実・改善を図る視点は常に持ちながら、実践を進める必要がある。	成果 コーディネーター会議を中心に据えて、適切な時期に推進委員会を開催した。また、相互の授業参観においても参観の視点を明確にし、小中教員の学びの場とすることが出来た。	課題(解決策) 個々の教職員が北宇治中ブロックの「小中一貫教育の特徴や実践事例」を報告できる力を育てていく必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	子どもの学習意欲を高め、学力の充実・向上につなげるためには、多面的な子ども理解が必要であり、中学校で培われている「教員間の緊密な情報交換」や「専門性を活かした学習指導」といった手法を生かす研修会を持つ。	成果 教科連携教員による2小学校での高学年外国語活動や体育の担任とのチームティーチングが定着した。教科連携教員やチーフコーディネーターが、学校間を行き来することにより、児童生徒の実態や指導の状況を情報発信できた。	課題(解決策) 小中の指導をつなぐ方策として取り組んだ「授業システム(めあて)」の統一が十分展開できていない。	成果 教科連携教員と小学校の担任とのチームティーチングは定着した。また、チーフコーディネーターが、小学校を訪問することにより、児童生徒の実態や指導の状況を中学校に伝えることができた。	課題(解決策) 中学現場で、小中の指導をつなぐ方策として取り組んだ「授業のめあて」をより効果的な授業改善の手法として活用する必要がある。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画(宇治スタンダード)を活用し、児童生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	小・中学校の教員が授業を通してつながる工夫を高め、北宇治中学校ブロック版の年間指導計画づくりをスタートさせる。また、児童が中学校で学ぶ体験授業や部活動体験等の取組をすすめる。小中学校間の指導をなめらかに接続させるため時間割や学年内での交換授業を調整することにより、高学年での教科担当制を推進する。	成果 夏季合同研修会で、教科・教科外部会を設定し、小中学校の年間指導計画を確認したり、小中学校をつなぐ指導について意見交流を行った。また、各部署で交流された内容を、教職員広報にまとめ、全体のものにした。	課題(解決策) 児童生徒や地域の実態に応じた年間指導計画の改善を図っていく必要があり、そのための継続的な会議設定も必要。	成果 授業改善の4つの視点①「いっしょに学習の取組」②子ども達が主体的に授業参加できる場面の工夫③「聞く 話す 書く」学習場面の設定④教科における授業規律の定着)を示すことができ、授業研究の柱にすることができた。	課題(解決策) 4つの視点や児童生徒や地域の実態に応じた年間指導計画の改善を図っていく必要がある。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	小中学校間の指導をなめらかに接続させるため時間割や学年内での交換授業を調整することにより、高学年での教科担当制を推進する。	成果 家庭科・音楽科・国語科・書写で教科担当制を実施した。教員間の情報交換等を通じて児童理解が深まった。(小倉小) 第6学年では、音楽科と体育科において担任間の交換授業を実施している。複数の教師が指導に関わることができた。(北小倉小)	課題(解決策) 時数・行事・特別教室の配当等調整が難しい課題はある。学級数が多く時間割の調整が難しく、交換授業の実施には至っていない。(小倉小) 時数・行事・特別教室の配当等調整が難しい課題はある。学級数が多く時間割の調整が難しく、交換授業の実施には至っていない。(小倉小) 実施しようとする教科・領域が多くなるほど時間調整が困難にはなる。(北小倉小)	成果 家庭科(高学年)・音楽科(高学年)・国語科の書写(4年生以上)で教科担当制を実施。また、外国語活動では、AET及び小中連携加配の専門性を活かした授業を展開できた。(小倉小) 各教諭が、教科毎に欠ける教材研究の時間が確保できるとともに、指導内容の	課題(解決策) 学級数や施設面の現状等が大きく影響する時間割の編成上、担任間での交換授業は実施できない。指導時数の調整という点からの低学年担任や担任外が、高学年の学習の一部を受け持つといった形態が限界である。(小倉小) 取組の効果についても期待できるが、教科を固定させることが困難であり、対外
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いっしょに学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	「3校の宇治学年間指導計画一覧表」をベースに小・小連携を推進し、中学校への系統性のある学習内容に整理する。また、小学校の特色ある「いっしょに学習」の手法を生かし、中学校での「補充学習のスタイル」などに工夫を加え、小・中学校がつながる「中学校へのパスポート」(春休みの課題)の作成をすすめる。	成果 北宇治中学校区版「いっしょに学習」や「宇治学」の計画は確認している。「宇治学」の育てたい能力を統一するための動きを作ることができた。	課題(解決策) 夏季合同研修会において、小中での「宇治学」のねらいを整理し、それぞれの計画や具体的内容(授業)に生かすことが必要である。	成果 「宇治学」「いっしょに学習」の年間指導計画が作成できた。また、作成のための協議を通じて、各校の特色ある取組を相互に確認でき、9年間の連携をすすめる契機となった。	課題(解決策) 各校の特色ある取組を「小」「小中」の連携のなかで、質を高めていく必要がある。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	学校HPの工夫や保護者や地域住民に見える連絡板の作成など工夫をすすめる。また、各校独自の「オープンスクール」、「民生児童委員・少年補導委員との連絡会」の開催など、地域を巻き込んだ取組をすすめる。	成果 各校の学校だよりにより「小中一貫教育コーナー」を位置づけ、保護者配布・地域回覧と共にHP掲載を行い、情報発信に努めた。	課題(解決策) 各校の様々な教育活動に、小中一貫教育の成果を示していく必要がある。	成果 学校だよりにおいては、「宇治市小中一貫教育」のコーナーを設け①外国語活動の学習指導の様子や②夏季合同研修会の内容を発信した。また、3月にはリーフレットを校区に配布できた。	課題(解決策) 各校のHPの中に、「小中一貫教育」のコーナーを作ったり、相互リンクを設定するなどの工夫をすすめる必要がある。北宇治中ブロックの個々の教職員が情報発信できるように支援する必要がある。
到達目標8	地域でつながり、共に支え合い、高め合う子を育てる。	「つながりを深めよう～組織を・授業を・地域と～」 ・小中一貫教育を推進する組織力の向上をすすめる ・小中学校の教員が授業を通してつながる工夫(協働した指導案づくりなど)を高める ・保護者や地域住民が学校教育に積極的に関わる体制をつくりあげる	成果 定期的なコーディネーター会議の設定・実施をすすめた。また、教科・教科外部会の内容を精選・拡充し、合同研修会で多くの発言を引き出すことができた。職員の総意で合同授業の実施教科・領域を増やし、内容の充実を進めた。今年度初めて全小学校教員が中学校の授業参観をした。	課題(解決策) 取組の精選・拡充をすすめたが、一つ一つの取組の総括を丁寧にする必要がある。また、小中合同の取組を地域に情報発信する必要がある。	成果 コーディネーター会議が定例化された。また、全教職員が参加する教科・教科外部会において授業改善の4つの視点に基づいた研究が深められた。互いの授業参観においても「参観の視点」を明らかにし感想交流をすすめた。	課題(解決策) 取組の総括で終わるのではなく、教職員が保護者、地域に対してブロックの取組を伝えることができる力をつける必要がある。

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【榎島中学校ブロック】[チーフコーディネーター名:小谷 実(所属校:宇治市立北榎島小学校)]

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(解決策)	成果	課題(解決策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制の中で、チーフコーディネーターが各校コーディネーターと連携・協力をしながらリーダーシップを発揮し、小中一貫教育の取組を推進する。そのために関係校に出向いての児童生徒の実態把握や指導サポート、各種研究・取組の調整を行う。	成果 チーフコーディネーターが、「夢・未来」会議・コーディネーター会議の設定や関係校に出向くことにより、連絡・調整・共通理解を密に行い、1学期・夏季休業中の取組を計画的に推進できた。	課題(解決策) 9年間を見通して教育目標やめざす子ども像に迫る取組を推進するために、「夢・未来」会議・コーディネーター会議の一層のビジョン共有を基に、3校の教職員の共通理解を図っていく。	成果 「夢・未来」会議を推進の要とした組織体制が定着してきており、その中で、チーフコーディネーターが各校コーディネーターと連携・協力をしながらリーダーシップを発揮し、取組を推進することができた。	課題(解決策) 「夢・未来」会議・コーディネーター会議で一層のビジョン共有を基に、3校の教職員の共通理解を大切にしながら、一つ一つの取組を進めていく必要がある。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	平成20年度から研究を進めてきた小中連携・小中一貫教育の成果や課題を踏まえて作成した平成24年度の計画を、児童生徒や地域の実態に応じた、めざす子ども像に迫る取組へ充実・改善を図る視点を持って、実践・検証する。	成果 これまで進めてきた教職員研修や児童生徒交流の取組を改善を図りながら進めることができた。それぞれの取組で感想や意見を集約し、その後の取組に反映させることもできた。	課題(解決策) これまでの研究実践で、ブロックとしての主要な事業は概ね確定してきている。ただ、児童生徒や地域の実態に応じた、めざす子ども像に迫る取組へ充実・改善を図る視点は常に持ちながら、実践を進める必要はある。	成果 教職員研修や児童生徒交流は、当初の計画どおり進めることができた。また、取組を通じた課題を整理しながら改善を図ることもできた。	課題(解決策) 年間を通して進める主要な事業は、課題を整理して次年度に引き継ぎ改善を図る。次年度に向けては、小中学校の教員が進める研究授業の充実が、大きな改善点の1つとなる。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	小学校高学年の外国語活動に英語科の教科連携教員が入り、担任とのチームティーチングで指導を進めることにより、中学校の専門性と小学校の児童に寄り添うきめ細やかな指導を融合させた中期モデルの授業を追究する。 教科連携教員やチーフコーディネーターが、小・中学校間を行き来することにより、日常の児童生徒や指導の実態を交流し、連携を深める機会とする。	成果 教科連携教員による2小学校での高学年外国語活動での担任とのチームティーチングが定着した。教科連携教員やチーフコーディネーターが、学校間を行き来することにより、児童生徒の実態や指導の状況を情報発信できた。中1ふりスタで、小中の教員が連携した指導を進めた。	課題(解決策) 小中の指導をつなぐ方策として取り組んだ「授業システム」の統一が十分展開できていない学校もあり、今後の課題である。	成果 教科連携教員による2小学校での高学年外国語活動での担任とのチームティーチングやチーフコーディネーターによる2小学校での国語支援、ふりスタでの小中合同指導、小学校栄養教諭の中学校での指導など、小中の教員が連携した指導を進めた。	課題(解決策) 上記成果を、日々の授業や指導に生かしていけるよう、合同研修や合同研究授業を通して深めながら、小中一貫教育「授業システム」の改善と充実を図る。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	各教科・領域部会を設定し、中学校の資料を含めた年間指導計画(宇治スタンダード)をもとに、小・中学校の指導の実際を交流しながら、系統的・継続的な学習指導実現に向けた研究を進める。	成果 夏季合同研修会で、教科・領域部会を設定し、中学校の年間指導計画を確認、小・中学校をつなぐ指導について意見交流を行った。各部で交流された内容を、教職員広報にまとめ、全体のものにした。	課題(解決策) 本ブロックの児童生徒や地域の実態に応じた年間指導計画の改善を図っていく必要があり、そのための継続的な会議設定が必要。	成果 夏季合同研修会での教科・領域部会の内容を再確認し、2学期以降の指導の中でそれらを意識した指導を展開することができた。	課題(解決策) 各校で、年間指導計画の改善点等を小中一貫教育の視点を含めながら整理し、次年度にしっかりと引き継ぐ。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	小学校高学年において、小中一貫教育連携教員による小学校外国語活動の指導(TT)や学年外教員を中心とした入り込み授業、担任間の交換授業など、中学校の教科担任制につなげる一部教科担当制を導入する。このことは、複数教員による児童への多面的な指導や組織的な指導体制を充実させるもので、前期区分においても、学年指導体制や交換授業を追究する。	成果 交換授業や連携教員・学年外教員による入り込み授業・専科指導により、高学年での一部教科担当制を実施できた。学校によっては低・中学年での担任による交換授業や学年指導が実施でき、組織的な指導や多面的な児童生徒理解を進める基盤作りができた。	課題(解決策) 担任間の交換授業は、時間割調整の難しさから、実現できていない学年もあり、様々な手法で実施できるよう改善を図る。	成果 交換授業や連携教員・学年外教員による入り込み授業・専科指導により、高学年での一部教科担当制を実施できた。学校によっては低・中学年での担任による交換授業や学年指導が実施でき、組織的な指導や多面的な児童生徒理解を進める基盤作りができた。	課題(解決策) 担任間の交換授業は、時間割調整の難しさはあるが、様々な工夫をしながら実施することを前提に検討する。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	「いしずえ学習」については、各校の学力充実の取組の特長を生かしながら、中学校ブロックとしての統一した内容を盛り込み、家庭学習を含めた学習サイクルの確立に向けた内容へ充実・改善を図る。 「宇治学」については、平成24年度の実施計画を実践・検証する中で、育てたい能力(観点)の統一化やめざす子ども像に迫る内容の充実に向けて改善を進める。	成果 年度当初に本ブロックの「いしずえ学習」や「宇治学」の計画は確認し、実践を進めている。「宇治学」の育てたい能力を小中で統一するための検討を始めた。	課題(解決策) それぞれの計画や具体的内容の充実・改善と共に、その目標(めざす子どもの姿)を全教職員で共有化するための研修や取組が必要である。	成果 次年度の「いしずえ学習」や「宇治学」の計画を、今年度の実践を踏まえた改善を図り、作成した。また、「宇治学」の育てたい能力を小中で統一するための検討を始めた。	課題(解決策) 「宇治学」として、小1小2で、小学3年～中学3年の系統性を追究する中で、総合的な学習の時間の趣旨に沿った指導内容作りや育てたい能力の統一化による指導目標の共有化を図るための研修を組織的に進める。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	小中一貫教育便り「マキシマム」の発行(保護者配布・地域回覧)の継続発行(保護者配布・地域回覧)やHPへの掲載、各校の情報誌での小中一貫教育目標やめざす子ども像、取組等の広報や校内掲示等を行い、小中一貫教育に向けた取組や研究を積極的に情報発信する。	成果 小中一貫教育便り「マキシマム」を2号(5月・9月)2回発行し、保護者配布・地域回覧と共にHP掲載を行い、情報発信に努めた。各校の学校便りに、「小中一貫教育校」や小中一貫教育目標・めざす子ども像を継続的に掲載した。	課題(解決策) 各校の様々な教育活動に、小中一貫教育の視点を加えていくことで、具体的な取組で小中一貫教育の成果を示していく必要がある。今年度の2小学校の記念式典で、中学校生徒会からのメッセージを盛り込むことを計画中。	成果 小中一貫教育便り「マキシマム」を年間4号発行し、保護者配布・地域回覧と共にHP掲載を行い、情報発信に努めた。保護者アンケートに、小中一貫教育校についての項目を設けた。多くの多様な意見が寄せられ、関心の高まりを感じた。	課題(解決策) 各校の様々な行事や日常の取組で、小中一貫教育の視点で取り組める可能性を追究し、児童生徒の姿で、保護者・地域に情報発信していく。
到達目標8	地域でつながり、共に支え合い、高め合う子を育てる。	地域ぐるみで子どもを育てる視点と児童生徒の良いモデルを子どもや地域に発信していく視点を持って、様々な取組を進める。その中で、授業で力を発揮し、仲間と共に力を高め合う児童生徒の姿を実現するための実践・研究を進める。	成果 地域で交流を深める「夏祭り」を今年も盛大に実施できた。その中の榎島中の吹奏楽部の演奏では、「共に支え合い、高め合う子」の求める姿を示すことができた。	課題(解決策) 2学期以降の中学校文化祭の5年生による参観や、中2の職場体験での小学校との交流、中学校体験入学、小中学生の主張交流会等で、児童生徒の良いモデルを交流し、地域に情報発信していく。	成果 小中学生の主張交流会や2小学校の周年行事での中学校生徒会からのメッセージ披露など様々な行事で、すばらしい児童生徒のモデルや交流場面を示すことで、小中一貫教育についての保護者・地域の理解を促すことができた。また、地域や小中学校の保護者間での交流を広げるために、3校PTA(育友会)合同本部役員会を開催した。家庭との連携を進めるアイテムの1つである家庭学習ナビゲーション中学校版の改善を図った。	課題(解決策) 特設の行事でのすばらしい児童生徒の姿を、日常の学習や生活の場面に広げる視点を持って、保護者・地域との連携を強化しながら、小中一貫教育に関わる研究実践を進める。

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【西小倉中学校ブロック】[チーフコーディネーター名:高橋 宏幸(所属校:西小倉小学校)]

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)	成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	チーフコーディネーターが各校と調整を行い、実態を踏まえたより効果的な研修会の企画、運営を図る。また、コーディネーター会議を定期的に実施し、取組内容を検討する。	成果	組織改編を行い、それぞれの部にコーディネーターを配置し、コーディネーター会議を定期的に開催し、取組の計画・実行・反省を行った。	成果	1年間を通して、コーディネーター会議を定期的に開催できた。また、各部会も「家庭学習の手引き」や「授業の約束」を作成し、合同研修以外でも部会で会議をもつなど積極的に取り組めた。
			課題(改善策)	それぞれの部会の取組方針や具体的内容の周知の徹底がまだ不十分であるため、文書作成や合同研修会での報告など全職員の共通理解を図っていく必要がある。	課題(改善策)	コーディネーター会議や各部会の会議の内容を教職員へ伝え、「家庭学習の手引き」や「授業の約束」をどの様に児童・生徒に浸透を図るのか研修が必要である。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	児童会、生徒会の本部役員の交流をはじめ、児童会生徒会の合同会議を開催し、協働できる取組を企画、実施する。中学校の「振り返りスタディ」や補習に小学校教員が参加するなど、教員が協働して児童生徒の指導にあたる。小学校6年時の課題を踏まえた学習教材の作成。	成果	1学期は相互の授業参観、夏季休業中の合同研修会、振りスタ支援など、教職員の交流研修会を多く設定した。6月と8月には、講師を招いて、教職員研修を行い小中教員の交流が深まった。	成果	小学生による「合唱コンクール」の鑑賞や駅伝指導、児童会・生徒会の合同研修会、半日入学等、児童生徒交流が1学期に比べると増え、中学へのイメージを持つことができた。
			課題(改善策)	各校の校時や行事の関係で児童生徒交流がなかなか進みにくい。しかし、2学期以降は、児童会生徒会の本部役員の交流を深め、児童生徒の合同の取組の計画・実施を進めていく必要がある。	課題(改善策)	児童会・生徒会の合同会議や児童・生徒間の交流など継続してできる取組の計画・実施を進めていく必要がある。また小中連携についても模索していく必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	小学校の教員が英語を中心にチームティーチングを行ったり、中学校教員が専門性を活かして小学校で指導したりするなど小中の連携、交流を推進し教員の意識改革と指導力の向上を図る。	成果	小学校高学年の外国語活動において、中学加配教員の教材開発や助言を得て、チームティーチングを行い中学校英語に必要な基本的な事柄を小学校外国語活動に取り入れることができた。	成果	2小学校の高学年児童は小中連携加配の支援による、活動内容に整合性のある外国語活動や効果的な支援が実施できた。また、中学の先生や外国語に親しむことで中学への不安や戸惑いを軽減できた。
			課題(改善策)	両小学校に関わる小中連携加配教員が2校に共通した取組を進め、中学1年に繋げることにより、中1ギャップの解消の手立てを図る。	課題(改善策)	中学校教員による専門性を生かした教科学習や小中連携による、教材や指導案を共有していける可能性を探る。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画(小学校編)を活用し、児童の発達に応じた系統的・継続的な学習指導を推進するために児童生徒の学習の定着や小中合同の研修会の充実を図るとともに9年間の一貫した家庭学習のマニュアルの活用を図る。	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	成果	3校のいしずえ学習の担当部員が会議を持ち、「家庭学習の手引き」が完成した。	成果	小中一貫だよりで「家庭学習の手引き」の活用の呼びかけや、「家庭学習の手引き」について、どれくらい認知・活用されているか、アンケートを保護者に実施した。また、家庭学習を支援するため、家庭学習点検に取り組んだ。
			課題(改善策)	「家庭学習の手引き」を配布し活用する。11月の合同研修会で「学力テスト」の分析をし、児童生徒の発達段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	課題(改善策)	来年度も、引き続き「家庭学習の手引き」の継続的な活用の呼びかけやアンケートの分析、手引きの修正と改善を目指す。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	小学校高学年において、学級担任の交換授業を推進し教科担当制を拡充するために各担任の特技を活かし、実技教科を中心に教科担当制を推進する。	成果	教科連携教員を活用するとともに、校内において、加配教員などによる教科担当制を行っている。	成果	学級担任だけでなく、学年の教師がその学年の児童全体に関わることができ、学習面と生活面の両面を学年で見ることができた。
			課題(改善策)	児童の実態や時数、行事、特別教室など課題が多く、担任による年間通しての交換授業は難しいが単元交換など積極的に行えるよう声かけをしていきたい。	課題(改善策)	学年教師での交換授業は限度があるので、一部教科担当制や中学校との連携等による教科担当制を検討する。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	各校の学力充実並びに総合的な学習の時間担当の教師が協働して、各取組を進める。中学校の「振り返りスタディ」や補習に小学校教員が参加するなど、教員が協働して児童生徒の指導に当たる。	成果	「振り返りスタディ」では、小学校教員、中学校教員の協働運営で学力向上をはかった。	成果	各校の「宇治学」「いしずえ学習」の年間計画や取組内容を合わせることで、小中での統一性、小中での系統性を高めることができた。
			課題(改善策)	「宇治学」の学習プログラムを計画に沿って実施し、内容の充実を目指す。	課題(改善策)	本年度の取組の内容や成果を検討し、改善・修正していく。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	保護者や地域に向けて積極的に情報を発信するために西小倉中ブロック共通のホームページを随時更新し、各校ホームページの相互リンク、西小倉中ブロック小中一貫推進ニュースの定期的な発行を行う。	成果	西小倉中学校ブロック小中一貫教育推進ニュース(家庭地域向け1回)を発行した。また、HP(西小倉中学校ブロック小中一貫のページ)にも公開した。	成果	「家庭学習の手引き」をブロック全家庭に配布できた。また、小中一貫教育推進ニュースで、活用の呼びかけやアンケートを実施できた。
			課題(改善策)	今後も小中一貫教育推進ニュースを発行し、小中一貫の実践内容や取組の情報発信を行う。各校のHPの中に「小中一貫教育」のコーナーを作るなどの工夫を進める必要がある。	課題(改善策)	保護者や地域に対して目に見えるような取組や、より効果的な啓発活動を検討していくことが必要である。
到達目標8	生徒指導上の問題を明らかにし、学習規律の徹底・充実を達成する。	生徒指導部会を中心に各校の生徒指導上の問題を交流し問題点を明確にした上で、9年間を見据えた小中一貫の推進のため、「生活のきまり」や「学習のルール」を周知させるとともにその徹底を図る。	成果	生徒指導部会では、学期の初めと終わりで生徒指導上の問題や授業の約束を交流、話し合い、3校が共通した「授業の約束」を決めることができた。	成果	部会では、各学校の生徒指導上の問題を交流できた。「授業の約束」が完成し、3学期の初めにブロック全学級に配布し指導した。
			課題(改善策)	3校が共通した「授業の約束」を決めることができたが、教員、児童・生徒ともにまだ周知には至っていない。2学期以降、3校(全学年・前クラス)への周知の徹底を図る。	課題(改善策)	教員、児童・生徒への「授業の約束」の徹底を今後も図っていく。また、生徒指導上の問題をより明らかにするためにブロック交流を定期的に持てるよう計画していく。

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【西宇治中学校ブロック】(チーフコーディネーター名:立原 隆弥(所属校:伊勢田小学校))

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
				成果と課題(改善策)		成果と課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	コーディネーター会議を定期的実施し取組内容を検討する。 学力充実部・児童生徒理解部・児童生徒交流部の3部会機能を充実させる。	成果	コーディネート部会は、月1回程度実施し交流できた。 3部の部会をそれぞれ開催し、今後の活動について課題の共通認識ができた。	成果	定期的にコーディネート部会を開催し、各校の課題等について共通認識を図ることができた。また、義務教育9年間を見通した「学習の手引き」を整備することができた。
			課題(改善策)	行事や持ち時間の関係で、定期でコーディネーター会議を持つことができなかった。	課題(改善策)	3部会を開催し、各テーマについての交流はできたが、具体的な取組を行うまでには至らなかった。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	コーディネーターを核とした推進会議による事業計画の具体化と、児童生徒交流部会における取組を充実させる。	成果	6月と8月に合同の研修会を持つことができた。課題を持つ児童生徒への関わり方や西宇治ブロックでの学習面での課題を共通認識でき、2学期以降への取り組みにつなげることができた。	成果	今年度は、年間3回の合同研修会を開催できた。各教科で課題克服のための手立てを実践することができた。小小連携として、「サンガつながり隊」の合同参加を実施できた。
			課題(改善策)	各校の校時や行事の関係で、児童生徒交流がなかなか進みにくい。児童生徒交流を進めていくためには、定期的な部会の開催が必要。	課題(改善策)	ブロック内での募金活動の合同参加が計画されたが、諸般の事情で実施するに至らなかった。今後は、ブロック内で実施可能な取組の整理が必要。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	小・中学校間の指導をなめらかに接続させるため、計画的に教科連携教員の活用を図る。(西宇治中より、英語(外国語)の基本とし、年間継続)	成果	外国語活動において、教科連携教員の活用を図っている。授業を通して、外国語活動への関心を高めたり、個々の児童理解や課題の把握ができた。	成果	外国語活動において教科連携教員の活用を図っている。各教科部会で課題となる点や克服のための手立てについて交流ができた。
			課題(改善策)	外国語以外の教科への連携も検討していく。	課題(改善策)	今年度の乗り入れ授業は外国語のみだったので、来年度は外国語以外の教科での連携を進めていく。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	合同研修会において各教科部会を充実させる。年間指導計画の改善と充実を図る。	成果	教科部会の実施で、中学校における課題を明らかにし、今後の取組への共通認識が持てた。9年間を見通した家庭学習や学習規律のための「学習の手引き」作成に向けた取組ができた。	成果	秋期合同研修会の公開授業を通して、課題克服のための手立ての検証を行うことができた。「学習の手引き」が作成できたので、西宇治中学校ブロックでの統一した学習習慣についての指導が可能となった。
			課題(改善策)	小中の各教科年間指導計画の検証を行い、系統的・継続的な学習指導を積極的に推進していく必要がある。	課題(改善策)	今年度確認された、課題克服のための手立てを、次年度以降も継続し、検証を続けていく。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	小・中学校間の指導をなめらかに接続させるため、計画的に教科連携教員の活用を図る。小学校高学年で、教科担当制に向けて、加配教員を活用する。	成果	教科連携教員を活用するとともに、校内において加配教員などによる教科担当制を行っている。	成果	教科連携教員を活用を進めるとともに、校内においても加配教員などによる教科担当制を進めていく。
			課題(改善策)	時数や、行事、特別教室の配当など課題が多く、すべての学年による年間通しての交換授業は難しい。単元交換など積極的にいえるように声かけを行う。	課題(改善策)	小・中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続するために、相互連携授業(乗り入れ授業)を充実させる。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	昨年度作成の、宇治学・いしずえ学習の実施計画について、検証活動を行い、実施計画の改善・充実を図る。	成果	「いしずえ学習用ワークシート」等の活用で、課題を持つ児童・生徒への個別指導が図れた。	成果	3校が実施計画を基にして、それぞれの特色を生かした取組を進めることができた。
			課題(改善策)	今後全教職員に向けて、宇治学・いしずえ学習の活用の推進を呼びかける。	課題(改善策)	宇治学・いしずえ学習の実施計画について検証活動を行い、今年度の反省をもとに改善を図る。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	小中一貫教育の実践的研究について保護者や地域に向けて学期に一回以上情報発信をする。 3校の校内掲示板にそれぞれの学校だよりを掲示したり、取り組み内容を掲示したりして情報発信をする。	成果	3校の校内掲示板に学校だよりや取組内容を掲示し、小中一貫教育の実践的研究について保護者や地域に向けて7月に情報発信をした。地域懇談会で小中一貫教育について情報発信をした。	成果	保護者や地域に向けて、学期に1回以上の情報発信をすることができた。
			課題(改善策)	今後も引き続き情報発信を行う。	課題(改善策)	NIS保護者だよりだけでなく、学校だより等も活用して積極的な啓発活動を行う。
到達目標8	西宇治中学ブロックの重点課題である、「進路指導を見据えた学力の向上」に向けた取組を計画的・継続的に進める。	合同研修会や各教科部会、三部会を充実・発展させる。取組の検証の場として、公開授業研究会を実施する。	成果	合同研修会や各教科部会を持つことによって、西宇治ブロック内で同じ目標を持って、今後の取組を考えることができた。	成果	今年度は、各部会を開催することができた。また、公開授業の中で、夏期研修会で確認された取組の検証を行うことができた。
			課題(改善策)	三部会機能の活性化を図る。	課題(改善策)	各部会で、できることとできないことを整理し、取組の充実を図る。

平成24年度中学校区を単位としたジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【南宇治中学校ブロック】[チーフコーディネーター名:石原 和彦 (所属校:宇治市立平盛小学校)]

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題	成果	課題
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	・全体研修会を実施する。 ・各部会を組織的、計画的に実施し、コーディネーターによる進捗状況の把握を行う。 ・推進委員会、コーディネーター会議を定期的に実施する。	成果	・全体研修会実施(5月「今年度の計画」、6月「日本語教室」、8月「ネットいじめ」「道徳教育」) ・全体研修会実施予定「保護者対応」(11月) ・コーディネーター会議で進捗状況把握 ・推進委員会、コーディネーター会議を定期開催	成果	・全体研修会については、年間を通して計画的に実施することができた。また、講師を招聘したり、南宇治中学校ブロックの特性に合わせた内容を設定するなどの工夫をすることにより、無理のない効果のあるものとすることができた。 ・推進委員会、コーディネーター会議を定期開催することにより、進捗状況の把握・調整を行いスムーズな運営ができた。
			課題 (改善策)	・全体研修会を、効果のあるものにしていくこと。	課題 (改善策)	・三校の教職員の意識に温度差がないように、管理職、コーディネーターが中心となり取組を進めていくこと。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・児童生徒理解部が中心となった組織的、計画的な交流事業を実施する。 ・三校合同参観において、連携授業を公開する。 ・円滑な推進ができるよう、コーディネーターが調整を図る。	成果	・児童会、生徒会合同会議実施(7月) ・豪雨災害小中合同街頭募金活動実施(8月) ・あいさつ運動取組予定(11月) ・部活動体験実施予定(11月) ・中学生によるクラブ指導実施(1月予定)	成果	・年間の見直しを持って、計画的に実施することができた。 ・小学生の部活動へ参加を通して、中学校生活への見直しを持たせることができ、中1ギャップの解消の手立ての一つとすることができた。 ・小中共通の生活目標を設定し、児童会・生徒会の交流が深まり達成感を持たせることができた。 ・中学生は、様々な交流活動で自己肯定感を高めることができ、心の成長を育むことができた。
			課題 (改善策)	・各部会の動きをコーディネーターが把握し、連絡調整を行うこと。	課題 (改善策)	・児童生徒の変容を把握して教職員全体のものとする。また、それをもとに工夫改善を行っていくこと。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・連携加配授業部を中心とした、小中連携加配の効果的な連携についての交流を実施する。 ・三校合同参観において、連携授業を公開する。 ・QUの実施及び分析交流を行う。	成果	・連携授業部において、小中接続における成果・課題を意識しながら授業を進めていること。 ・連携加配教員の小学校における授業公開を実施(年間5回実施) ・連携加配教員の中学校における授業公開を実施予定(年間1回実施) ・QU実施(1学期)、交流予定(2学期)	成果	・小中学校で授業公開をすることで、地域保護者への情報発信ができた。 ・連携加配教員を中心として、小中学校の接続を意識した見直しを持った指導を検討し、実施することができた。 ・小中共通の生活目標を設定し、児童会と生徒会活動の交流や取組を実施することができ、児童生徒間の交流を深めることができた。
			課題 (改善策)	・教科連携加配教員による授業の成果・課題を小中接続の視点からまとめ、全体のものとする。	課題 (改善策)	・連携加配教員と小学校教員がさらに連携を深めて授業をおこなうことで、児童の学力向上につなげていくこと。 ・QUの分析活用についての交流と研修を行うこと。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・算数部、国語部、外国語活動部を中心とした、スムーズな接続に向けた焦点を絞った研究を進める。 ・夏季研修会を中心に教科部会を実施し、系統的、継続的な学習指導の研究を行う。	成果	・各教科部会の実施(1学期2回)、実施予定(2学期1回) ・夏季全体研修会において特設教科部会を実施し、来年度以降に向けて効果的な方向の検討を進めたこと。	成果	・「国語部」「算数・数学部」「外国語活動・英語部」については、年間を通じた活動を行い、ポイントを絞った授業改善を検討することができた。 ・夏季研修会においては、すべての教科の部会を行い、小中学校の交流を図ることで今後につなげることができた。
			課題 (改善策)	・部会の研究内容を全体のものにしていくこと。	課題 (改善策)	・具体的な授業改善を、さらに進めていくこと。 ・各部会の成果を、共通理解して実践につなげていくこと。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	・時間割を調整し、可能な範囲で小学校における教科担当制を推進する。	成果	・各校の実態に合わせて、一部教科担当制を実施	成果	・各校の実態に合わせて、一部教科担当制を実施することができた。
			課題 (改善策)	・一部教科担当制を推進すること。	課題 (改善策)	・一部教科担当制を推進するための時間調整の工夫を行うこと。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・学力充実部と宇治学部が中心となり年間計画を検証する。 ・三校の宇治学の参観を相互に実施する。	成果	・部会において、年間計画の検証を進めている。 ・2学期に、三校それぞれの宇治学の授業を相互に参観予定(10月、11月)	成果	・各校の宇治学のカリキュラムについて交流し、小中それぞれの視点で見ることにより深めることができた。 ・小学校の宇治学の授業を中学校教員に公開し、実践交流を行うことができた。
			課題 (改善策)	・検証活動をもとに、実施計画の充実を図ること。	課題 (改善策)	・公開授業を3校合同で実施すること。 ・3校の教員が、他校に向いて宇治学の授業を行うことについて検討すること。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・コーディネーターが情報を収集し、小中一貫教育の実践内容や取組等を小中一貫だよりで広報する。 ・ホームページや学校だよりで、情報発信を行う。 ・小中連携授業の、保護者地域への公開授業を行う。 ・各校に、小中一貫教育の目標揭示及び揭示コーナーを設置する。	成果	・小中一貫だよりの発行(7、9月、2月予定) ・小中一貫教育目標の揭示(校舎外・教室) ・教職員向け小中一貫だよりの発行(9月、2月予定) ・学校だより、HPを活用し、取組内容を積極的に発信 ・小中一貫教育の揭示コーナーを各校に設置 ・小中連携授業の保護者地域への公開授業実施(小学校1学期実施予定(中学校11月)) ・育友会三校合同講演会実施予定(11月)	成果	・小中一貫だよりの発行や学校だより、HPを活用した小中一貫の取組内容の積極的に発信。また各校に設置した小中一貫教育の揭示コーナー等により、地域・保護者への発信を充実させることができた。 ・三校の育友会が合同で取り組む「三校合同講演会(10月)」を実施するなど、育友会も含めた小中一貫教育の取組を進めることができた。
			課題 (改善策)	・小中一貫だよりを定期的に発行し、情報発信を継続していくこと。	課題 (改善策)	・各校の様々な学校行事に、小中一貫の視点を加えていくことで、その成果を地域・保護者に目に見える形で発信していくこと。
到達目標8	三校で相互に授業参観をそれぞれ実施し、それをもとに授業改善を図り、小中のスムーズな接続につなげることを達成する。	・小中教職員間の授業参観を計画的に実施し、合同研修会でその成果・課題を明らかにすることにより授業改善につなげる。	成果	・1学期に三校それぞれの授業参観を実施 ・夏季合同研修会の特設教科部会において、各教科の2学期以降の授業改善に向けた交流を実施	成果	・1学期に三校それぞれの授業参観を実施することを通して、教職員の意識を高めることができた。 ・三校の授業参観を通して、小中学校の教員が交流を行い、授業改善につなげることができた。
			課題 (改善策)	・各教科部会で交流した内容をもとに、スムーズな接続に向けた授業改善を進め、来年度以降の取組につなげていくこと。	課題 (改善策)	・各教科部会で交流した内容を元にした授業改善の成果を全体のものとして、来年度以降につなげていくこと。

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【 広野 中学校ブロック 】[ チーフコーディネーター名: 島田 尚明 (所属校: 大久保小学校 ) ]

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)	成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	・宇治ひろの学園小中一貫教育研究会の円滑な運営 ・各部会の計画的な取組 ・H23年度の成果と課題の整理 ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施	成果 これまでの成果と課題を踏まえ、両小学校で共同で取り組める行事を考えたり、授業研究の成果等を共有するため学年部会を新設した。また、各部会の取組を研修会等で報告したりして、宇治ひろの学園の教育活動を計画的・継続的に進めている。	課題(改善策) 小小連携の一貫として学年部会を新設したが、協議内容の精選や会議開催の調整等の課題もある。	成果 ・当初計画通り教育活動を実施。 ・学校運営部会、事務局会議(コーディネータ会議)の定期開催により、常に学園事業の進行管理や工夫改善を図った。 ・新たな児童生徒や教職員の交流事業にも取り組んだ。 ・学園の一貫教育の取組についての保護者アンケートを3月に実施予定	課題(改善策) ・小小連携の学年部会を有効活用できるよう、二校の調整を十分にを行い、年度当初に会議計画を作成するなど計画的な開催に努める必要がある。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	・宇治ひろの学園小中一貫教育研究会の円滑な運営 ・各部会の組織的な活動の実施 ・コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上)	成果 各部会を定期的に開催。その活動の様子については研修会で報告し、全体のものとなるようにした。また、小小連携の一環として学年部会を新設して共同の行事を模索するなどしている。	課題(改善策) 各部会での提起が、各校の実践にすぐにはつながらないことがある。	成果 ・児童生徒の交流事業及び教職員の参加する各部会とも計画通り実施した。 本年度は、新規事業として2月に「小学生の1日中学校体験」(HOT-STUDY)、「中学生による小学校児童への読み聞かせ」を実施するなど、児童生徒交流・小小交流を積極的に進めた。 ・教職員による各部会は、当初計画通り実施し、各節にはコーディネーターから全教員に報告した。	課題(改善策) ・各学校とも各々課題を抱えていることから、無理なく効果的な交流事業や取組の更なる工夫が必要である。 ・各部会での提起に対して、各校の温度差が依然ある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・教員の定期的な打合せの時間の確保 ・各部会の組織的な活動の実施 ・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施	成果 教科連携教員の乗り入れ授業(T・T)や小中連絡会での小学校教員による総合的な学習の時間の授業、振りスタへの小学校教員の参加、各校の授業研究会への参加等に取り組んだ。また、両小学校で頭髪・ピアス等についての統一した指導も実施した。	課題(改善策) 小小連携としての学年部会を有効活用できるようにする。	成果 ・連携教員の両校6年生への授業(T・T)や小中連絡会での小学校教員による総合的な学習の時間の授業、振りスタへの小学校教員の参加、各校の授業研究会への参加等に取り組んだ。 ・両小学校で頭髪・ピアス等についての統一した指導も実施した。(その後、頭髪ピアスに改善が見られた。)	課題(改善策) 小小連携としての学年部会を有効活用できるようにする。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画(宇治スタンダード)を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施 ・コーディネーター会議(事務局会議)の定期的な実施(月1回以上) ・9年間のシラバスの作成	成果 事務局会議で情報を交換しながら、他校の授業研究会にも参加している。また、宇治スタンダードを活用して9年間を見通した学習指導を実施している。	課題(改善策) 小小連携を活かした指導計画の見直しや小中の系統的・継続的な指導計画をさらに進める。(9年間のシラバス作成を目指す)	成果 ・学力部会が各種学力検査結果分析を行い、各校への学習指導に資する提起を行った。 ・定期的な事務局会議で各校の情報を交換しながら、3校の校内授業研究会への参加を促した。	課題(改善策) ・小小連携を活かした指導計画の見直しや小中の系統的・継続的な指導計画をさらに進める。(9年間のシラバス作成は、宇治スタンダードを各校で実践検証しているところである)
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	・大久保小と大開小の小小連携の計画及び実施	成果 高学年からの教科担当制(教科交換授業)は定着している。	課題(改善策) これまで両小学校で積み上げてきた授業研究の成果を相互に交流、活用できるようにしたい。	成果 ・高学年からの教科担当制(教科交換授業)は定着しており、生徒指導面でも学年全教師で児童指導を行う効果が現れている。	課題(改善策) ・これまで両小学校で積み上げてきた授業研究の成果を相互に交流、活用できるようにしたい。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・「いしずえ学習」「宇治学」の指導計画の計画及び実施	成果 宇治学については、昨年度末に作成した計画に即して実施している。いしずえ学習については、夏の研修会で学力部からの提起にしたがい、各校での年度当初の計画を見直しながら実施している。	課題(改善策) 各校の進行状況を部会で交流しながら、来年度に向けて見直しを進めていく。	成果 ・宇治学については、昨年度末に作成した計画に即して実施している。中学校では今年度新たに小学生への読み聞かせに取り組んだ。 ・いしずえ学習については、夏の研修会で学力部からの提起にしたがい、各校での年度当初の計画を見直しながら実施している。	課題(改善策) ・各校の進行状況を部会で交流しながら、来年度に向けて見直しを進めていく。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・各校の学校だよりでの紹介やホームページの活用	成果 年度当初に3校の行事予定表を発行。また、3校の取組を広報紙(月1回)で知らせたり、新聞などで積極的に情報発信したりした。また、頭髪・ピアス等についての啓発文書を両小学校で配布した。	課題(改善策) ホームページをこまめに更新したりするなど、保護者・地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく必要がある。	成果 ・広報誌(HOOP)の特別号を3校の全家庭に配布した。また、新聞などで積極的に情報発信したりした。 ・頭髪・ピアス等についての啓発文書を、両小学校長名で配布した。	課題(改善策) ・年度初めからHOOPを毎月3校の全家庭に配布したり、ホームページをこまめに更新したりするなど、保護者・地域に対して「目に見える取組」を更に展開していく。
到達目標8	異学年交流と言語活動の充実を達成する。	・伝え合う力の育成を目指した教育活動	成果 小中連絡会で「伝え合い」の授業に取り組んだり、各校での授業研究会に参加し合い、「伝え合う力」の育成のための取組交流を重ねている。	課題(改善策) 中学生による小学1年生への紙芝居の読み聞かせなど、これからの取組を成功させる。	成果 ・小中連絡会で「伝え合い」の授業に取り組んだり、中学生による小学1年生への紙芝居の読み聞かせに取り組んだりした。	課題(改善策) ・各校での「伝え合う力」の育成のための授業研究の成果や課題を交流する活動を考える。また、今年の活動で改善すべき所を整理して取り組んでいく。

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【東宇治中学校ブロック】[チーフコーディネーター名: 上口 俊幸 (所属校: 宇治市立南部小学校)]

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)	成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	・コーディネーター会議を定期的に開催し、取組の計画・実行および修正を行う(小中一貫教育教科連携加配教員も参加する)。	<b>成果</b> ・年度当初に校長、教頭、教務主任、コーディネーター、連携加配教員が一堂に集まり、1年の方向性について共通認識することができた。 ・定期的なコーディネーター会議を持つことができた。	<b>成果</b> ・校長、教頭、教務主任、コーディネーター、連携加配教員が共通認識を持って取り組むことができた。 ・定期的にコーディネーター会議を持つことができた。	<b>課題(改善策)</b> ・夏季合同研修会において(向けて)推進3部会や教科部会を開くことが出来たが、さらに活動内容を深めていく必要がある。	<b>課題(改善策)</b> ・一貫教育を進めるなら会議など取組の内容を精選する上で4校が共通したスクールマネジメントプランを検討する必要がある。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	・各校の状況から児童生徒交流、合同事業の可能性を探り、コーディネーターが中心となって計画を立て、円滑な推進ができるよう担当校、担当学年と調整を進める。	<b>成果</b> ・ボランティア交流や相互授業参観など昨年度の取組を引き継ぎ、新たな交流取組の計画を立てることができた。 ・年度当初はコーディネーター会議で計画を立てて行ってきたが、推進3部会の児童・生徒交流部会が中心となって計画を立て進めることができた。	<b>成果</b> ・コーディネーターや児童生徒交流部会が中心となってプランターの受け渡しやエコキャップ回収を行うことができた。	<b>課題(改善策)</b> ・各校の距離や分散進学などの課題は大きい中で、東宇治中学校ブロックの特色を生かした取組をさらに検討し計画を立てる。	<b>課題(改善策)</b> ・行事については、本年度の実績を踏まえ、ブロックの行事として、さらにより良い方法を考えながら内容を検討していく。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	・教科連携加配を積極的に活用し、英語、外国語活動の授業を、教科の専門性を生かして行う。また系統性を考慮に入れた指導案での授業を行う。	<b>成果</b> ・6年の外国語活動の授業を中心に、連携加配の教科専門性を生かし、共通の指導案でT・T形態での指導を行うことができた。 ・連携加配を中心に小中の円滑な接続をねらいとした3小1中の児童・生徒理解を進めることができた。	<b>成果</b> ・ブロックの児童・生徒実態を共有することができた。	<b>課題(改善策)</b> ・各校の距離が遠く、移動に時間がかかることもあり、打ち合わせの時間等が十分に取れないこともあった。	<b>課題(改善策)</b> ・各校の距離が遠く、移動に時間がかかることもあり、打ち合わせの時間等が十分に取れないこともあった。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	・合同研修会で教科ごとに授業や指導計画や実践を交流し、指導の手立てについて話し合い、交流する。	<b>成果</b> ・合同研修会の前に、推進3部会の機能を生かして本年度の議題を事前に検討することができた。	<b>成果</b> ・夏季合同研修での交流ができた。	<b>課題(改善策)</b> ・交流のみになった部会もあり、交流した内容を実践に生かせるようさらに計画を立てることが必要。	<b>課題(改善策)</b> ・宇治学については、自校における検証が難しく、ブロックでの交流はさらに困難であった。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	・交換授業や入りこみ授業による教科担当制や学級分割授業など、担任外の指導機会の必要性を示し、積極的に推進する。	<b>成果</b> ・学年によっては、限られた教科や単元で実施することができた。	<b>成果</b> ・学年によっては、限られた教科や単元で実施することができた。	<b>課題(改善策)</b> ・教科によって時間数が違うため、年間を通して行うことは難しい。	<b>課題(改善策)</b> ・学校組織や学校運営方法によって難しいことがある。 ・実施した学年の成果の共通認識が必要。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	・各校における宇治学の指導計画をふまえ、特色ある取組を交流し、教材など協力できる可能性を探る。 ・各校のいしずえ学習の内容や様子を交流、検討する。	<b>成果</b> ・夏季合同研修会において宇治学部会で各校の取組、指導計画等を交流することができた。	<b>成果</b> ・宇治学部会で各校の取組、指導計画等を交流をもとに、次年度への申し送りについて方向性を見出すことができた。	<b>課題(改善策)</b> ・宇治学においては、地域性やブロックの特色を生かすために、さらなる部会を開催し、計画の見直しや実践交流が必要。	<b>課題(改善策)</b> ・夏季合同研修後の取組や活動について、さらに充実した取組が望まれる。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	・小中一貫だよりを発行し、各校で配付・掲示する。 ・取組を学校だより等で紹介し、保護者や地域に情報発信する。 ・ブロック間でだより等を交換し、各校で掲示する。 ・各校における学校行事にコーディネーターが参加し、小中一貫教育の実施をアピールする。	<b>成果</b> ・チーフコーディネーターが全てのPTA(育友会)総会に参加し、小中一貫をアピールすることができた。 ・小中一貫だよりや小中一貫コーナーでブロックの取組を紹介することができた。	<b>成果</b> ・育友会(PTA)の合同研修会を実施することができた。	<b>課題(改善策)</b> ・広くたくさんの保護者や地域に理解してもらうためには、ますます積極的な啓発活動が必要と思われる。	<b>課題(改善策)</b> ・広くたくさんの保護者や地域に理解してもらいやすいPRや行事を行う必要がある。 ・PTA合同研修会については、毎年持ちまわり開催にしたい。
到達目標8	教科指導、生徒指導、行事等における取組について、ブロック4校の教職員全員がより意欲を持って実践および指導ができるようにする	・教職員全体が意欲的に取り組めるように、研修会の計画や児童実態交流等の話し合い活動において、推進3部会(独自組織)を機能的に活用する。	<b>成果</b> 夏季合同研修会に向けて推進3部会を開き、交流内容等について計画を立てることができた。	<b>成果</b> ・夏季合同研修を行うことで、教員同士が顔なじみになり、小さなことも連絡(連携)が行いやすくなった。	<b>課題(改善策)</b> ・夏季合同研修会だけでなく、その後の取組に向けて機能させることが必要。	<b>課題(改善策)</b> ・ブロック4校の学校運営方針や校務分掌、取組等を工夫し、特別支援や生推協等を含めた上で組織再編制を考える必要がある。

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
				成果と課題(改善策)		成果と課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などにに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	ブロック校長会、教頭会や小中一貫教育推進委員会兼コーディネーター会議だけではなく、4領域部会および8教科部会の定例化を図り組織全体の中で有機的に行えるようにする。	成果 2回の小中合同研修会を柱にして、そこへ向けての各部会を確実に開催することができた。	成果 ブロックが広範囲で集まりにくい中、年間3回の小中合同研修会に向けて各部会が確実に開催できた。	課題 今年度初めて小中合同の授業研に取り組んだこともあり領域部会を持つことが少なかった。来年度、領域部会を再編し活動しやすい状況を作る。分散進学の問題は様々な取組に大きな課題となっている。	
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	各小中学校の学校行事の計画段階で一貫教育を意識した取組を計画的、有効的に組み込む。年間3回の小中教員の合同研修会実施を柱にそれに向けての各部会長を中心とした代表者会を継続的に行う。各小中学校の研修会、行事などへの教職員の相互乗り入れ交流を行う。小中学校の児童生徒の交流行事の開催。	成果 小中合同研修会(5/14、8/20)、中学校より小学校参観(6/25)中学校の研修会への小学校からの参加(6/20)、吹奏楽部の出前コンサート(3小学校へ)を実施することが出来た。	成果 小中合同研修会(5/14、8/20、11/26)、中学校より小学校参観(6/25、10/22)中学校の研修会への小学校からの参加(6/20、10/31)、半日体験入学(11/14)、吹奏楽部の出前コンサート(3小学校へ)を実施することが出来た。	課題 各校の行事が重なり参加しにくい等の反省を年度末の日程調整に反映させる。各校での曜日の振替などによる授業変更も柔軟に組み込んでいくが5校の調整は難しい面が多い。	
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	中学校理科教員による全小学校での(通年、毎週)を実施する。中学校理科教員を通して、小中連携授業を計画、実施する。合同研修会を通して小中教員のTTIによる指導案の検討と研究授業を実施する。ブロックの4領域部会の定例化と合同研修会を通して実践を交流し深める取組をすすめる。中学校での生徒指導部会や学級編成会議などへの連携教員の参加により情報提供や指導に生かす。	成果 連携教員による授業は計画通り実施できている。小中合同研修会において教科毎に教員が集まり指導案を検討できた。単なる交流ではなく、共に授業を作るという活動ができた。	成果 連携教員による授業は計画通りブロック内の4校全てで実施できた。小中合同研修会において教科部会、領域部会を実施し交流できた。中学校の学級編成に役立った。	課題 学習指導については合同授業研もあり一歩進んだが、生徒指導など連携教員以外にも日常的な小中の交流する機会を持つ方向性が必要。	
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達に段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	教科の年間指導計画を活用し小中教員が交流する機会を設ける。各教科部会を設定し、小中合同で指導案を作成し実施する。	成果 授業研究会に向けて実技や実験も取り入れながら指導案を検討できた。中学校教員が小学校の教科書を準備、持参して臨むことができた。	成果 授業担当者任せにならず、たくさんの教員が一つの授業に関わることで交流できた。当初の予定を変更して、1日で2会場同時に実施したことがかえって良かった。	課題 授業研での授業内容を今年度は教科の裁量で幅の広いものとしたが今後、年間計画との整合性をどのように図るか。	
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	御蔵山小(外国語活動、音楽、書写、体育、家庭)木幡小(理科、社会、図工、体育、書写、家庭)笠取小(算数、音楽、体育)、笠取第二小(算数、図工、音楽、体育、書写)で実施する。	成果 全小学校で計画通り実施できた。	成果 全小学校で計画通り実施できた。	課題 今後のことは各校の人的な体制に関わる部分である。	
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	木幡中校区で設定した「いしずえ学習」「宇治学」学習プログラムにそってカリキュラムを編成しフィードバックする。	成果 6年生向けの「春休みの家庭学習」の配布ができた。「家庭学習のしおり」リーフレットの作成に着手した。	成果 6年生向けの「春休みの家庭学習」の配布ができた。「家庭学習のしおり」リーフレットを作成できた。	課題 「家庭学習のしおり」の配布までできなかった。	
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	小中一貫教育通信(保護者、児童生徒向け)(教職員向け)の定期発行。中学校の「生活だより」を全6年生へ配布。全校の掲示板に「小中一貫コーナー」を設置し掲示する。各校の学校だよりの中に小中一貫教育コーナーを設ける。各小中学校の学校だよりを小中全教職員に配布する。ホームページ等の活用。	成果 4月より毎月確実に「小中一貫だより」「教職員向け」「中学校生活だより」を発行し配布できた。昨年より継続している取組はさらにすすんだものとなっている。	成果 4月より毎月確実に「小中一貫だより」「教職員向け」「中学校生活だより」を発行し配布できた。各校に交流コーナーの掲示板やホームページに一貫コーナーを設置できた。	課題 予算配分の再検討と、分散進学にかかる小学校への配布をどのようにしていくか調整が必要である。	
到達目標8	小中教員のつながりの強化と一体となつての授業研究をすすめる。	小中合同研修会の実施。小中教員が共に属する教科部会を開き、指導案の検討及び授業を共同で行う。	成果 小中合同研修会の実施により授業研究はもとより、特別支援学級の担当者や養護教諭の交流の場を同時に持つことができ今後の対応に大変有効であった。	成果 小中合同研修会の実施により授業研究はもとより、特別支援学級の担当者や養護教諭の交流の場を同時に持つことができ今後の対応に大変有効であった。	課題 来年度の領域部会の再編に今回の交流を生かしていきたい。	

平成24年度中学校ブロックジョイントプランに基づく小中一貫教育の進捗状況報告書【黄檗中学校ブロック】〔チーフコーディネーター名：吉田周晃(所属校：宇治小学校)〕

番号	到達目標	具体的な取組方策	中間総括(9月末現在)		年度末総括(2月末現在)	
			成果	課題(改善策)	成果	課題(改善策)
到達目標1	中学校ブロックにおけるチーフコーディネーターを要とする小中一貫教育を推進する組織を整え、ブロックの教育目標やめざす子ども像などに基づき、義務教育9年間を見通した特色ある教育活動を計画的・継続的に進める。	○企画委員会…校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教務主任、生徒指導主任、学年主任、授業改善部長、特別支援部長、特別活動部長 ○前期主任会…副校長、教頭(小)、主幹教諭(生徒指導担当)、教務主任(小)、小中一貫コーディネータ、1.2.3.4年学年主任 ○中期主任会…副校長、教頭(中)、教務主任(中)、生徒指導主任、小中一貫コーディネータ、5・6・7年学年主任 以上の会議を開催し、ステージ毎の学習内容・生徒指導についての音	成果 ○前期・後期それぞれに主任会を設定し、生徒指導や取組等の交流を行い各ステージのまとまりを重視することができている。 ○それぞれの主任会にコーディネーターが参加することで連携を進めることができている。	課題(改善策) ○小中それぞれの教員が1～9年生までを育てるという意識の向上。 ○小中の教員がそれぞれの教育課程を理解し、系統的な教科指導が行われるような研修の在り方。	成果 ○前期、中期にそれぞれ学年主任会を設定したことで発達段階に応じた交流ができた。 ○コーディネーターが時程管理を一括して行っているため、小中別の授業や行事にもすぐに対応できた。	課題(改善策) ○小中の教員がそれぞれの教育課程を理解し、系統的な教科指導が行われるような研修の在り方。
到達目標2	中学校ブロックにおける教職員や児童生徒の交流事業や合同事業を積極的に推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の工夫・改善を図る。	○校務分掌を小中一括で担当し、教科担当主任を中学校教員が担当することで校内でより専門的な知識を得られるような教員の配置を行う。 ○全教室、全授業において随時公開という意識を全教職員が持ち、児童生徒においても、常に、小中様々な教員が教室に入り、サポートしているという意識を醸成させる。 ○児童会、生徒会それぞれに独立した組織づくりではなく、学園会を組織して、小学生、中学生という枠組みを超えた学園の一員であるという意識を育む。	成果 ○教頭・生徒指導主任・教務主任・養護教諭など、小中の垣根を越えて児童生徒に指導することで、一体感が生まれている。 ○小中の教員がそれぞれの指導にあたることで、小中の段差を減らすよう努力している。 ○児童会生徒会を統合した学園会を組織するよう検討を進めている。	課題(改善策) ○9学年揃った段階での活動の中心を何に据えるか。 ○学校行事への各学年の関わり方。	成果 ○初の学園会選挙を実施することで、中期(5, 6, 7年)児童生徒の学園運営への参画意識を高めることができた。また、小中の教員が一緒に指導することができたので、児童生徒に「中期」の意識付けができた。	課題(改善策) ○小中合同の行事・取組と小中別の行事・取組をさらに精選し、学園全体の取組としての意識を高める必要がある。
到達目標3	教科連携教員を中心に相互連携授業(乗り入れ授業)を行うなど、教職員の連携・交流を推進し、小中学校間の学習指導や生徒指導をなめらかに接続させる取組の充実を図る。	○3年音楽 書写 ○4年音楽 (中学校からの乗り入れ) 書写 ○5年社会 音楽(中学校からの乗り入れ) 外国語(中学校からの乗り入れ) 家庭科 ○6年音楽 (中学校からの乗り入れ) 外国語(中学校からの乗り入れ) 家庭科 ○生徒指導は小中主任が連携してあたる	成果 ○100%とは言えないが、かなりの成果をあげている。(一貫校の強み)	課題(改善策) ○小学校からの乗り入れの実現。	成果 ○緩やかな教科担当制から教科担任制への接続が非常によく機能している。子どもたちは徐々に「教科の先生」の授業に慣れていっている。なめらかな接続がかなりの成果をあげている。	課題(改善策) ○小学校籍の教員が中学校での授業へ乗り入れることができるのとさらに成果を上げることができるのではないかと考える。
到達目標4	9年間を見通すことのできる教科の年間指導計画[宇治スタンダード]を活用し、児童生徒の発達の段階に応じた系統的・継続的な学習指導を推進する。	○3つのステージに応じた学習指導 ○評価を通じた授業実践およびシラバスを活用した系統的な学習指導 ○9年間を見通した評価の検討 ○各教科における「ことばの力」の育成	成果 ○シラバス・学習の手引きを配布。 ○評価研修会の実施。 ○ステージごとの目標設定。	課題(改善策) ○9学年揃っていないので、前・中・後期のカテゴリーが曖昧。	成果 ○業者による学力調査を1～7年生で実施(予定)することにより、学習状況の把握と授業改善に役立てる。また、全学年の問題を全教職員に配布し、9年間にわたり、系統的・継続的な指導ができるよう研修ができた。	課題(改善策) ○中期(5, 6, 7年)というカテゴリーが形成されるまでにはまだ少し時間がかかる。
到達目標5	小学校高学年において、学級担任の交換授業等を推進し、教科担当制を拡充する。	○音楽 家庭科 外国語活動 社会で実施中	成果 ○5・6年においては積極的な教科担当制を行っている。 ○3・4年においても一部教科の担当制を導入することができる。	課題(改善策) ○担当する教員のキャリア・指導力に差が生じる。 ○交換授業については実施していない。	成果 ○学級担任が授業する教科が減り、1教科の教材研究にかかる時間が確保された。そのことにもない、個別の支援や対応にかかる時間が大幅に増えた。	課題(改善策) ○学級担任が授業する教科が減ったことで、自分が担当する教科以外の教材を深く研究する機会が減少した。
到達目標6	中学校ブロックにおいて「いしずえ学習」「宇治学」の取組を推進し、節々の検証活動をもとに実施計画の改善・充実を図る。	○「宇治学」 中期での共同学習(きずな科) …異年齢集団興味・関心課題探求活動 ○「いしずえ学習」 宇治小…いしずえタイム ぐんぐんタイム 黄檗中…いしずえタイムⅠ いしずえタイムⅡ	成果 ○小中共通の学習タイムを設定することで、意欲の向上、学校の一体感が見られる。 ○共同学習への意欲も高まってきている。	課題(改善策) ○放課後補習については下校時刻及び、下校時の安全確保に改善の余地がある。	成果 ○中期「宇治学」共同学習(絆科)の取組で5, 6, 7年が共通のテーマに沿って学習を進めることができた。 ○7年生が中期のリーダー的役割であることを生徒、教職員ともに再認識することができた。	課題(改善策) ○授業時間の違い(45分と50分)による授業設定の難しさがある。
到達目標7	小中一貫教育の取組内容について、保護者や地域に向けて積極的に情報発信する。	○「小中一貫教育」研究 学校公開(2月中旬) ○学校だより等の地域回覧 ○HPでの取組内容の紹介	成果 ○積極的な情報発信ができています。 ○HP更新も頻繁に行っている。	課題(改善策) ○開校当初ということもあり、長期的で正確な予定などを地域に対して発信しにくい。	成果 ○本年度の教育活動をリーフレットにまとめ全保護者に配布。 ○実践報告会に保護者や地域住民も参加していただき、本年度の取組内容を報告した。	課題(改善策) ○教職員向けの部分と保護者、地域向けの部分とが混在してかえってわかりにくくしてしまった。
到達目標8	宇治黄檗学園(宇治小学校・黄檗中学校)としての目標	施設一体型小中一貫校として、また、宇治市の小中一貫教育のモデルとなるような教育内容、教員の研修・研究システムを構築することが、喫緊の課題である。	成果 ○小中学生の交流が行えた。 ○小中の教員が同一の研修会に参加し、意見交流、学び合い等ができる。(夏の研修会で課題と改善点を検討) ○2月の実践報告会に向けての授業実践を進める。	課題(改善策) ○チャイム設定。(45分と50分授業) ○授業公開・研究・研修時間の確保。	成果 ○教育内容、教員の研修・研究システムの構築を目指して取り組み、学校運営・教育内容の4つの柱に沿って本年度の教育活動をまとめ、実践報告会でも報告した。 ○チャイムの設定に関しては一定整理することができている。	課題(改善策) ○全学年がそろそろ平成26年度を見通し、成果や課題をふまえながら学校運営・教育内容をさらに工夫改善が必要である。

視察等受け入れ状況 (宇治市教委担当分)

平成25年2月18日現在

平成24年度			計38件	宇治黄檗学園等施設見学
1	4月11日	宇治市	FMうじ(宇治市探検) 小中一貫教育全面実施紹介	
2	4月20日	京都府	亀岡市教育委員会(6名)	
3	4月20日	宇治市	宇治市生涯学習審議会(報告) 10名程度	
4	5月16日	茨城県	ひたちなか市議会(文教福祉委員会9名)	
5	5月16日	群馬県	桐生市議会(教育民生委員会6名)	見学
6	5月23日	山梨県	南アルプス市議会(南政クラブ5名)	見学
7	6月20日	大阪府	島本町ゆめ本部(3名 予備打合せ)	
8	6月26日	京都府	亀岡市立高田中学校PTA(30名)・亀岡市教委(4名)	見学
9	7月11日		文部科学省(3名)	見学
10	7月18日	栃木県	佐野市議会(8名)	見学
11	7月23日	東京都	板橋区議会(文教児童常任委員会12名)	見学
12	7月25日	京都府	京丹波町教委(2名)	
13	8月2日	愛媛県	鬼北町立日吉中学校(1名)	
14	8月6日	大阪府	高槻市立阿武山中学校区一貫教育推進委員(8 7名)	
15	8月10日	兵庫県	尼崎市立中学校教頭会(18 17名+市教委2名)	広野中学校
16	8月21日	宮城県	大崎市議会(総務常任委員会9名) 水害対応の為資料提供のみ	
17	8月22日	岐阜県	岐阜市教育委員会(2名) 8/27以降に延期	見学
18	8月29日	静岡県	静岡市議会(上下水道教育委員会11名)	
19	8月31日	京都府	綾部市小中一貫教育研究委員会(13 9+市教委5名)	見学
20	10月4日	香川県	三観地区市教委連絡協議会 県外合同視察研修(7名)	見学
21	10月18日	福岡県	北九州市教委 管理職派遣事業(教頭5名+市教委1名)	大久保小 広野中
22	10月18日	京都府	京丹後市教育委員会(教育委員5 4名+事務局2名)	見学(AM)
23	10月30日	宇治市	宇治市青少年こころの電話相談員研修会(約30名)	
24	10月31日	石川県	金沢市教育委員会(教育委員3名+事務方3名)	施設分離見学希望 調整×
25	11月2日	三重県	東員町校長会(小6名・中2名)	広野中学校
26	11月9日	福岡県	東峰村教育委員会教育委員(5名)	見学
27	11月15日	岡山県	岡山県11名(県教委2名・市町教委9名) 施設中心の視察	見学
28	11月19日	京都府	南丹市立小中学校教頭会(22 18)・市教委(1 0)	見学
29	11月27日	宮城県	東北大学教育学部小泉ゼミ(教授1名・学生3名)	見学希望 調整×
30	11月29日	静岡県	浜松市立元城小学校(校長1名)	見学
31	12月5日	京都府	南丹局地教委連<3市町教育委員>(委員(14)13名+事務局3名)	見学
32	12月6日	奈良県	生駒市議会有志(4 3名)	見学
33	12月10日	長野県	茅野市教委(教育長を含む7名)	
34	1月17日	高知県	香南市教委+校長会等(9名)	広野中
35	2月4日	宮城県	名取市議会(名取グローバルネット4名?)	見学
36	2月6日	長野県	諏訪市教育委員会(教育長含む教育委員5 4名・事務局2名)	広野中(大久保小対応)
37	2月8日	岡山県	津山市立高野小学校教頭(1名)	
38	2月15日	福島県	福島市議会真政会(14 13名)	
<b>問い合わせ</b>				
	夏休み	埼玉県	北本市教委問い合わせ	
		滋賀県	大津市教委(南郷中・大石小・南郷小)問い合わせ	
		京都府	高田中小中学校運営協議会/市小中一貫教育研究会	
		北海道	北海道豊浦中学校&豊浦小学校視察問合せあり	
		兵庫県	豊岡市教委指導主事より質問	
14件	9月11日	佐賀県	小城市立芦刈小学校校長より問い合わせ	
		京都府	綾部市教委参事より質問	
	10月17日	京都府	宇治田原町教委より質問	
	11月21日	京都府	福知山市教委より質問(アライ理事、岸本参事が別々に)	
	12月6日	大阪府	池田市教委より質問	
	12月25日	佐賀県	小城市立芦刈小学校教頭より問い合わせ	
	1月12日	京都府	綾部市教委参事より質問	
	2月5日	大阪府	高槻市教委教育センター指導主事より問い合わせ	
	2月26日	広島県	福山市教委指導主事より問い合わせ	